

参考1

川・緑・太陽の恵み
健康・安全・潤いのくまがや

熊谷市地球温暖化対策

地域推進計画

(概要版)

平成21年3月

熊谷市



地球温暖化とその影響

地球温暖化とは

近年、地表の平均気温の上昇に伴い、大規模な気候変動が見られるようになってきました。それが地球温暖化と呼ばれるもので、地球上の生態系や私たち人類の生存を脅かす極めて重大な環境問題として、世界的に早急な対応が求められる状況となっています。

地球温暖化の影響

地球温暖化が原因と考えられる気候変動による影響は、私たちひとりひとりの生活における食料、健康や安心・安全といったさまざまな場面に現れています。今後さらに地球温暖化の進行に伴う影響が顕在化してくるものと予測されています。



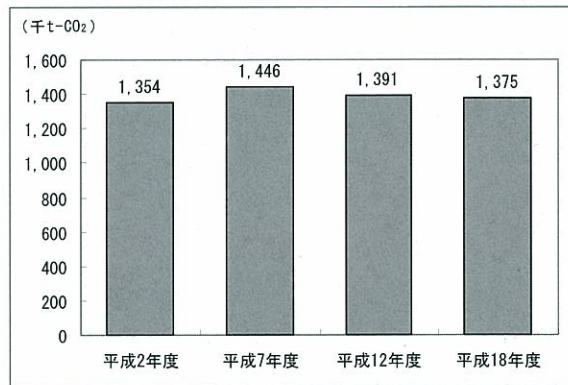
温室効果ガス排出量の推移と現状

本市の温室効果ガスの現状について

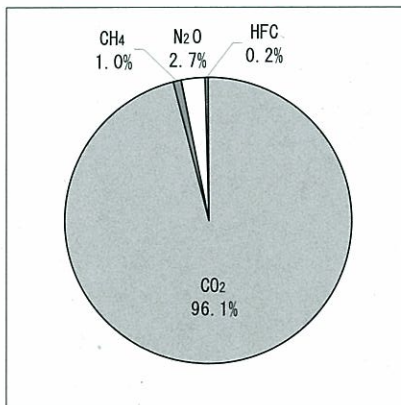
平成 18 (2006) 年度の温室効果ガス総排出量は約 137 万 5 千トン-CO₂ です。京都議定書の基準年度の平成 2 (1990) 年度総排出量は約 135 万 4 千トン-CO₂ で、平成 7 (1995) 年度に増加後は減少に転じ、平成 18 (2006) 年度では基準年度比で約 1.6% 増加しています。

平成 18 年度の部門別の温室効果ガス排出量は、産業部門が全体の 39.8% を占めて最も多く、次いで業務部門、家庭部門、産業廃棄物部門、運輸部門、一般廃棄物部門となっています。

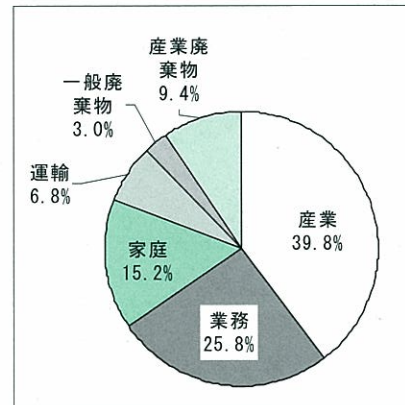
熊谷市の温室効果ガス排出量の推移



温室効果ガスの種類別内訳



温室効果ガスの部門別内訳



温室効果ガスの種類と主な人為的発生源

温室効果ガス	人為的な発生源
二酸化炭素 (CO ₂)	化石燃料の燃焼、廃棄物などの燃焼。
メタン (CH ₄)	農業活動 (水田や家畜)、化石燃料の燃焼、廃棄物の埋め立て等。
一酸化二窒素 (N ₂ O)	化石燃料の燃焼、窒素肥料の生産・使用による排出。
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	カーエアコン、冷蔵庫などの冷媒などに使用。

部門の説明

部門	説明
産業	第 1 次産業 (農林水産業) と第 2 次産業 (鉱業、建設業、製造業)
業務	第 3 次産業 (卸売・小売業、サービス業など)
家庭	家庭生活
運輸	自家用車 ※トラック、バス等の運送業は含めない
廃棄物	ごみの焼却、し尿の処理等